



## 九州北部地方（山口県を含む）では記録的な暖冬となりました

- 九州北部地方（山口県を含む）の全ての気象官署で、冬の平均気温が統計開始以降、最も高くなりました。
- 九州北部地方（山口県を含む）の冬の地域平均気温も、統計開始以降、最も高くなりました。

九州北部地方（山口県を含む）では、2020年冬（2019年12月～2020年2月）は寒気の南下がほとんどなく、気温は高く経過しました。

1. 九州北部地方（山口県を含む）の気象官署（全6地点）及び特別地域気象観測所（11地点中10地点）で、冬の平均気温が最も高くなりました（別紙1参照）。
2. 九州北部地方（山口県を含む）の冬の地域平均気温平年差<sup>※1</sup>が過去最高となりました。

表 九州北部地方（山口県を含む）の冬の地域平均気温平年差（統計開始1947年冬）

	2020年冬 平年差（℃）	これまでの冬の1位 2019年冬 平年差（℃）
12月	かなり高い（+1.4）	高い（+1.1）
1月	かなり高い（+2.9）	高い（+1.2）
2月	高い（+2.0）	高い（+1.7）
冬（12月～2月）	かなり高い（+2.1）	かなり高い（+1.4）

地域平均気温平年差の経過等は、別紙2を参照してください

3. 記録的高温となった要因は、日本付近における偏西風（亜熱帯ジェット気流）が平年より北を流れたことと「正の北極振動<sup>※2</sup>」により寒気の南下が弱く、冬型の気圧配置が続かなかったことが考えられます。また、背景として地球温暖化の影響も考えられます（別紙3参照）。

※1 地域平均気温平年差は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい・寒いかを地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の雲仙岳を除く16地点における気温の平年差を平均して算出しています。

※2 「正の北極振動」とは、北極域の海面気圧が平年より低く、中緯度域の海面気圧が平年よりも高くなる現象で、中緯度に寒気が流れ込みにくくなります。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部  
地球環境・海洋課 担当：川口  
防災調査課 担当：蛇嶋  
電話 092-725-3613 FAX 092-761-1726

表 九州北部地方（山口県を含む）の 2020 年冬の平均気温

地点名	平均気温 (°C)	平年値※ (°C)	平年差 (°C)	「冬の平均 気温の高い 方から」の 順位	これまでの 1 位 気温 (°C) (年)	統計開始 (年)
山口	7.4	5.2	+2.2	1	6.8 (2007)	1967
<b>下関</b>	9.8	7.8	+2.0	1	9.2 (2007)	1884
萩	8.6	6.4	+2.2	1	7.8 (2019)	1949
<b>福岡</b>	9.8	7.6	+2.2	1	9.2 (2019)	1891
飯塚	8.0	6.0	+2.0	1	7.4 (1949)	1936
<b>佐賀</b>	8.9	6.5	+2.4	1	8.3 (2019)	1891
<b>長崎</b>	10.0	8.0	+2.0	1	9.4 (2007)	1879
厳原	8.7	6.8	+1.9	1	8.1 (2007)	1887
平戸	9.8	7.7	+2.1	1	9.2 (2007)	1941
佐世保	9.7	7.7	+2.0	1	9.2 (2007)	1947
雲仙岳	5.6	3.4	+2.2	1	5.0 (2007)	1925
福江	10.4	8.3	+2.1	1	9.7 (2007)	1963
<b>熊本</b>	9.0	6.8	+2.2	1	8.5 (2007)	1891
人吉	7.4	5.4	+2.0	1	7.3 (1949)	1944
牛深	11.4	9.4	+2.0	2	11.8 (1979)	1950
<b>大分</b>	9.2	7.2	+2.0	1	8.7 (2019)	1888
日田	7.3	5.0	+2.3	1	6.6 (2019)	1943

※ 斜体は気象官署を示す

※ 平年値は 1981 年から 2010 年の平均

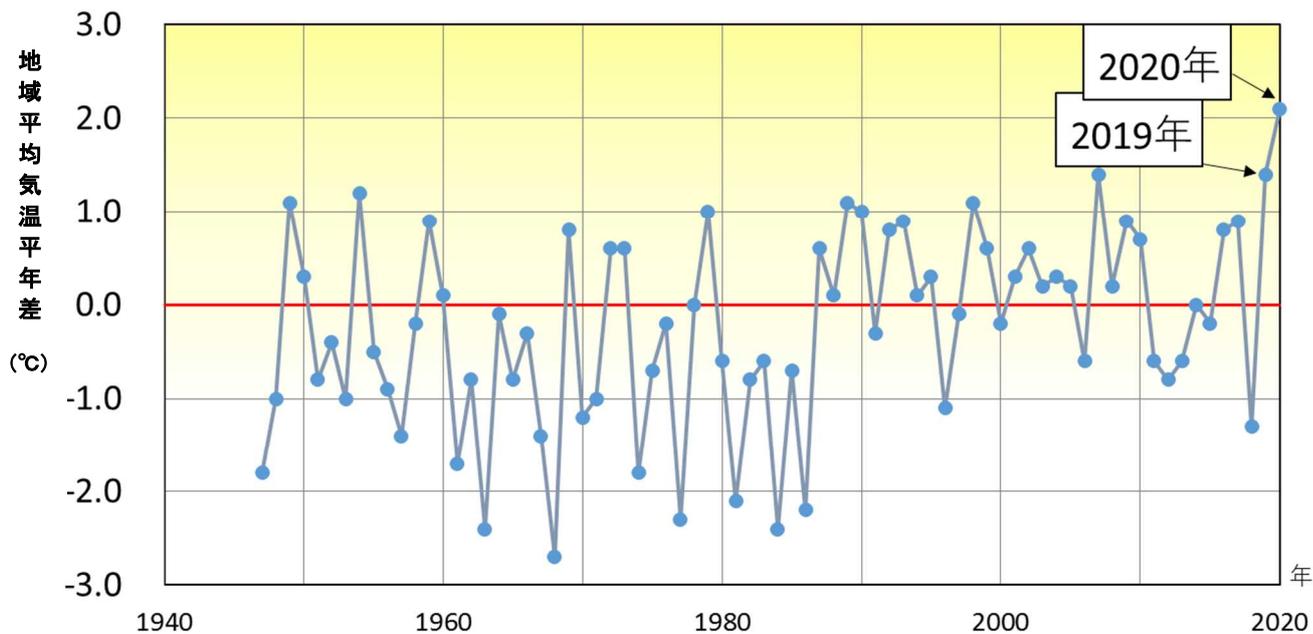


図1 九州北部地方（山口県を含む）の冬の地域平均気温平年差の経年変化  
（統計期間：1947年冬～2020年冬）

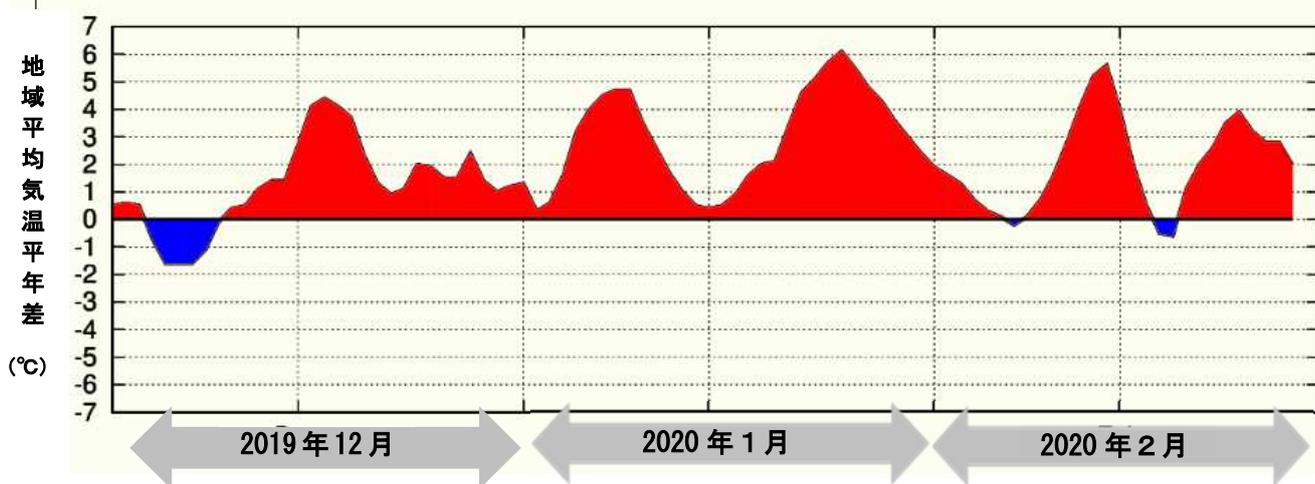


図2 九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温平年差の時系列（5日移動平均値）  
（2019年12月～2020年2月）

※地域平均気温平年差は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい・寒いかを地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の雲仙岳を除く16地点における気温の平年差を平均して算出しています。

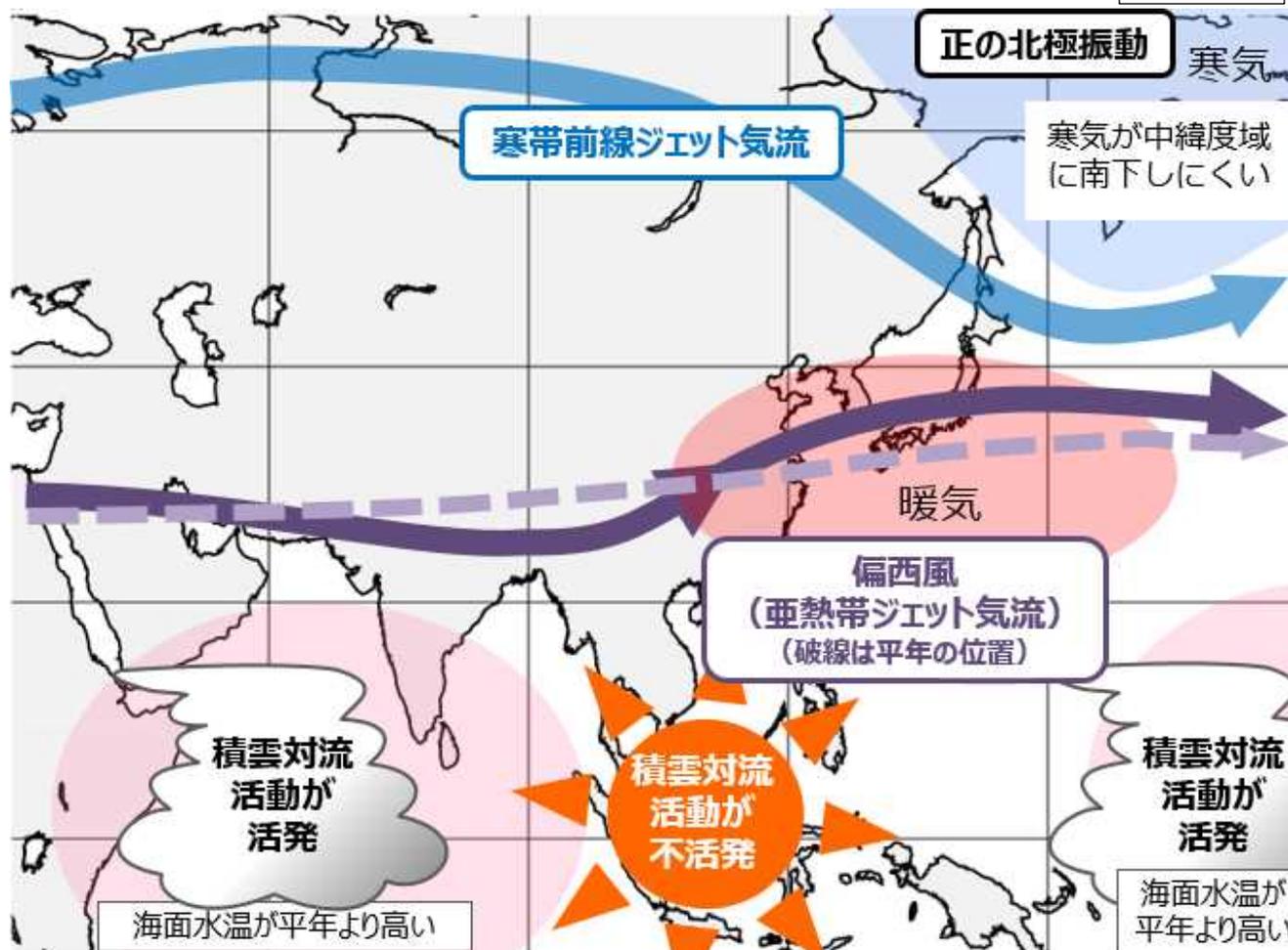


図3 2020年冬の平均的な大気の流れの模式図

- 日本付近では偏西風が北寄りを流れ、東・西日本を中心に全国的に暖かい空気に覆われました。
- シベリア高気圧の張り出しは南ほど弱いほか、アリューシャン低気圧も平年より弱くなり、日本付近では冬型の気圧配置が続かず寒気の南下が弱くなりました。
- 偏西風（亜熱帯ジェット気流）の蛇行には、インド洋西部や太平洋赤道域の日付変更線付近で対流活動が活発な一方、インド洋東部～インドネシア付近で対流活動が不活発となったことが関連しているとみられます。
- この対流活動の偏りには、熱帯の海面水温が、インド洋や太平洋赤道域の日付変更線付近で平年より高いことが関連しているとみられます。
- 寒帯前線ジェット気流はユーラシア大陸東部ではバイカル湖の北から沿海州付近で明瞭となり、東シベリア付近の寒気は平年よりも弱くなりました。
- 「正の北極振動」が明瞭となり、寒気が中緯度域に南下しにくくなりました。